

「すき焼き先生」が、きた」

飛田雄一 2024年9月30日 hida(a)ksyc.jp

「“すき焼き”先生が、来た！」。うれしい日だった。季節によってはそれが毎月のようにあった。私の、かわいい？幼少期のころのことだ。

私は、1950年、神戸市兵庫区都由乃（つゆの）町生まれ。「都由乃」、なにか由緒のある地名のような気がするが調べたことはない。姉の名前は「つゆの」。この地名から父がつけたという。いいかげんな命名だ。この時代、女性の名前は99%？が、「〇子」。つゆのという名前は超レアーだ。学級名簿などをみてもすぐ目に飛び込んでくる。

我が家のとなりは石井幼稚園。となりというより幼稚園の横に我が家がかっついていてるのだ。戸を開けるとそこは園舎。自宅の居間から、ふすまのような戸を開けると園舎なのだ。石井幼稚園は、日本キリスト教団神戸教会の附属幼稚園。石井伝道所でもあった。ときどき家庭集會が開かれていた。そこで説教を担当するのが神戸教会の伝道師やそこに派遣されていた神学生だ。神戸教会は「組合教会」の系列に属する。同志社大学がその総本山？だ。したがって、石井伝道所にくるのは同志社大学の神学生。その伝道師、神学生に家庭集會のあとで（前だったかな？）すき焼きがふるまわれるのである。

それ以外に我が家ですき焼きを食べたことはなかった？ お金のない彼らにごちそうするのだ。当時、神戸教会の牧師をしていた祖父・鈴木浩二の依頼によるものであったことを、のちに知った。

先日（2024.9.29）、神戸教会150周年記念礼拝、愛餐會、シンポジウムに参加した。『創立150周年記念誌』をいただいた。そこに、「同志社大学神学部派遣神学生」一覧があった。初期のころ、以下の神学生の名前がある。

竹中正夫 1949年度
村山盛敦 1950～1951年度
笠原芳光 1952年度
田中久雄 1953～1953年度
三好 博 1954年～1955年度
岩井健作 1955年～1956年度
田口重彦 1956年～1958年度
池永益世 1957年度
橋本滋男 1958年～1959年度
工藤弘志 1959年～1960年度

私は1950年生まれで、計算がしやすい。三好先生が1954年、私4歳。うっすらと覚えている。私が大きくなって（1970年代）、三好先生から、「ゆうさん（私のこと）が膝の上でおしっこをした」と言われて、なんとも、困った。

「すき焼き先生」としては、田口先生をいちばん覚えている。2年前に友人と八ヶ岳麓のご自宅を訪問した。（エッセイ「ジバング倶楽部の旅－身延線、小淵沢、そして諏訪湖」参照。）

神戸教会150周年では、岩井健作牧師の奥さま、溢子（いつこ）さんともお会いした。私の母が同じ「溢子」。特に親近感がある。お元気そうでうれしかった。